

クリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1147 2015年10月号

請負事業者等連絡協議会を開催

9月16日に高知県安芸市民会館において安芸森林管理署管内
請負事業者等連絡協議会を開催しました。 【詳細は2頁】





請負事業体等連絡協議会（石橋署長挨拶）



九月一六日に高知県安芸 准監督署三名、四国森林管
市民会館において、請負事 理局担当者二名、当署職員
業体等五九名、安芸労働基 三〇名の計九四名が参加

し、請負事業体等
連絡協議会を開催
しました。
本協議会は、今
後、事業の最盛期
を迎えるに当り、
関係事業体及び関
係機関等が連携を
密にして、法令等
の変更やこれに伴
う労働災害防止対

策等を全員が共有し、徹底
することに、労働災害
の未然防止を図ることを
目的として開催したもので
す。
開会にあたり、当署石橋
署長から「林業は、自然環
境に影響されるため、他の
産業と比較して非常に厳し
い作業環境にあり、安全管
理体制の整備や各作業者の
安全作業の遵守が重要。九
月に入り事業の最盛期を迎
えてさらに忙しくなるが、
急がば回れの精神で安全第
一で作業に当たっていただ
きたい。」との挨拶があり
ました。
その後、安芸労働基準監
督署の松岡監督・安衛課長
より「労働災害防止のため
に「リスクアセスメントを
進めよう」と題して安全
講話がありました。リスク
アセスメントとは、作業が
どれくらい危険かをランク
付けし事前に評価する手順
のことです。災害の防止対
策として有効といわれてお
り、林業においてもリスク
アセスメントの導入が重要
な課題となっていることや
ポイント等についても分か
り易く説明がありました。
引き続き安芸労働基準監
督署矢野署長からは、「足
場からの墜落防止のための
法改正について」、「高知県
内及び安芸労働基準監督署
管内での労働災害の推移」、

「斜面崩壊による労働災害
の防止対策に関するガイド
ラインについて」、「交通労
働災害の防止について」等
の講話がありました。
続いて、当森林管理局吉
良企画官（安全衛生担当）
から、近年の四国局管内に
おける請負事業の原因別、
作業別等災害発生状況、ま
た、平成二六年度に発生し

た労働災害の概要・原因に

安全協議会でリスクアセス

業務管理官からの挨拶

ついでの説明後、「月別発

参加した請負事業者等か

メンツの勉強会を行うなど

全対策の取組を根気強く引

生件数では九月〜一〇月が

らは、多くの現場作業職員

具体的な防止対策の取組を

き続き実施していくことが

最も多く、これらを参考に

の出席をいただいたところ

進めているところです。今

重要と参加者全員で確認す

類似災害の具体的で効果的

ですが、机で資料に向かっ

回の協議会を終え、改めて

ることができました。

な安全対策を実施してほし

ての長時間の講習会は慣れ

い。」との話がありました。

ていないにもかかわらず、

最後に、当署竹倉次長か

うなずいたり、メモを取り

ら「リスクアセスメントを

ながら熱心に聞く姿が見ら

実施している林業関係請負

れ、安全に対する関心の高

事業者等はまだまだ少数で

さを感じ取ることができま

あり、請負事業者への浸透

した。

に向けて、各事業者の代表

当署では、今年度は重大

者や責任者が中心となり、

災害の撲滅はもとより、労

職場全体でリスクアセスメ

働災害の未然防止を図るこ

ントの取組を進めてほし

とを基本として、様々な取

い。」との挨拶で閉会しま

組を行う中で、例えば健康

ることができました。



八月二一日、当森林管

う先生方から森林環境分

理局大会議室において、

野の基礎的知識の修得の

高知市教育研究会環境教

機会提供を依頼され開催

育部会に所属する小中学校

したものです。

の先生、三五名を対象に「森

午前中は、環境教育部

林木工教室」を開催しま

会主催の講演会が開かれ、

した。

(株)NHKエンタープラ

本会は、環境教育を担

イズエグゼクティブ・プロ



デューサー村田真一氏によ

る「いかに生物多様性の大

切さを伝えるか」と題する

講演があり、当局職員も聴

講しました。

午後からは、「森林木工

教室」を行いました。

はじめに、当局業務管理

や近年の森林教室の内容、海外の森林状況、シカ害の概要、さらに、本日の木工作品作りを通して森林の大切さを実感して頂き、子ども達に森林の大切さを伝えて頂きたい等お話がありました。



糸電話で実験中

次に自然再生担当企画官から「四国の国有林におけるニホンジカ被害対策の概要」と題して現状・取組み・対策・課題等について森林教室を行いました。

木工教室は「ジージーセミ作り」と「竹製プランター作り」の二班に別れ、当課職員及び森林ボランティアの方々の協力を得て実施しました。

セミ作りは、本体を予め作っておき羽・頭を作って貼付けると仕上がるようにしました。その後、三班に別れ「糸電話」を体験した。当局担当者からは、森林教室の指導方法について先生方に質問をして意見交換会を行い、「森林木工教室」を終了しました。

この教室をきっかけに今後も学校現場で森林の働き等の学習が益々増えていくが、この教室をきっかけに今年、夏休みの森林教室等の開催について年度始めに公募方式にしたところ多くの児童クラブ等から依頼がありました。抽選により、高知市内の小学校放課後児童クラブや各ふれあい

て、音を作る、音を伝える、音を大きくするなどの「セミはどうして鳴くのか」を説明しました。

プランター作りは、最初に竹の特性や「竹の物差し」はどうして竹を使っているのかなどのお話をした後行っていました。中にはスコップまで作った先生、花瓶を作った先生とどちらの班（セミ・プランター）も盛況でした。

最後に交流会ということ、先生方から「ニホンジカの現状とこれからについて」等の質問が出されました。当局担当者からは、森林教室の指導方法について先生方に質問をして意見交換会を行い、「森林木工教室」を終了しました。

この教室をきっかけに今年、夏休みの森林教室等の開催について年度始めに公募方式にしたところ多くの児童クラブ等から依頼がありました。抽選により、高知市内の小学校放課後児童クラブや各ふれあいを実施しました。



児童クラブでの森林教室



森林にもっと関心を持つてもらえるようにと、児童クラブでは、三択による木の名前当てクイズを行い、ふれあいセンターでは、森林の働き・大切さ・恵みをテーマにパネルを使用して説明しました。クイズでは、子ども達が正解する度に大

喜びしていた様子から、各物車」を完成させた児童は、自いくつかの木の名前を覚えてもらったのではないかと。まっすぐ速く進む車、と思います。また、植物への関心も高く、正解の写真を見せると、「もつと見せて」と前へ寄ってきてじつくり葉や花を見ていく子ども達は大盛り上がりでした。その他に、「飛んでカベ掛けなど夏休みの宿題らしい作品ができました。その後、森林からの「おくりもの」である、小枝や竹を使って木工教室を実施しました。

児童クラブは、先と低学年の児童が主体なので事前に各パーツに加工したものを使いました。「動物車」などを作るのこぎりを使用するのは初

カベ掛けを製作中



でいました。

この夏休み期間中も、たくさんの児童、先生、保護者の方に森林教室等を実施しました。少しでも森林・林業に興味を持って頂き、山を好きになつてもらえたらと考えています。

めてということ、木や竹を切るのに悪戦苦闘していました。 ※高知市ふれあいセンターは地

例年、木工教室の作品を、夏休みの宿題の自由研究課題としている小学生が多く、どの子も真剣に楽しんで作品づくりに取り組んで利用されています。域のコミュニティ活動の拠点施設で、町内会活動や、住民の皆さんの交流、グループ・サークルなどの学習・集会の場として

各地のたより



「滑床溪谷の樹木名板の付け替え」 〈ふれあい推進センター〉

足摺宇和海国立公園特別

地域である愛媛県宇和島市

滑床溪谷の万年橋から

雪輪ゆきわの滝までの遊歩道

沿いに設置してある樹

木名板が老朽化し、文

字が読めない状態と

なっていたことから、

「滑床を愛する会」の協

力により、九月四日に、

樹木名板の付け替え作

業を行いました。

当日は、地元、宇和島ケー

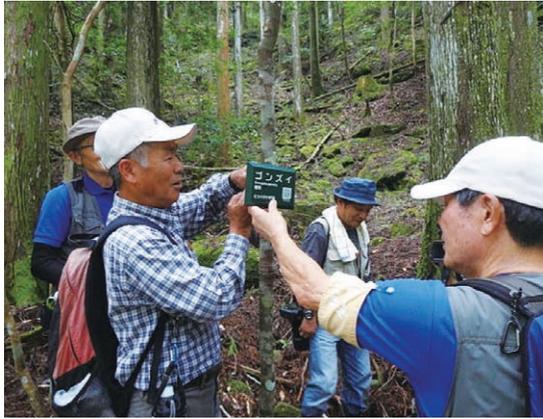
ブルテレビもその様子を取

材に来ていました。

付け替えが済んで真新し

い樹木名板になったこと

で、滑床溪谷を訪れる人達



樹木名板の付け替えの様子

に、樹木の名前を一つでも
覚えて帰ってもらえればと

考えています。

「西土佐中生徒が職場体 験の事前学習と三本杭 登山を体験」 〈ふれあい推進センター〉

高知県四万十市立西土佐

中学校では、二年生が三年

生の時に実施する職場体験

学習の事前学習として「職

業人に聞こう」と題し、西

土佐地区のさまざまな職業

について学習しています。

それぞれの職場の方に来て

もらい仕事の内容などを学

んだ上で職場体験を依頼す

る事業所を選び、進路選択
に生かして行きたいという

ことで、当センターにも要

請がありました。

一〇月二日に、所長が中

学校に出向き、生徒から事

前に出された質問に答える

とともに、当センターの仕

事の内容について説明しま

した。

一〇月六日には、秋晴れ

の中、生徒二九名と教諭四

名の総勢三三名を案内して

三本杭に登りました。

生徒は、職員から登山道

沿いの樹木の名前や特徴、

シカの食害防止用のネット

設置の状況などの説明を受

けながら約二時間かけて三
本杭の頂上を目指しまし

た。

途中の八面山やっつらやまで休憩し、

これから行く三本杭山頂

はあそこだと説明すると、

「えー、遠い、疲れた。」と

言う生徒もいました。

三本杭の山頂に到着し、

歩いてきた八面山は、あそ

こですと説明すると、遙か

に遠くに見えるその山に驚

いていました。

昼食後は、三本杭の名前

の由来や山頂周辺のニホン

ジカの食害、貴重なブナ天

然林について説明しました。

ニホンジカの食害につい